

情報技術の進歩により、今ではインターネットにより、瞬時に、そして世界中から情報を得られるようになった。これは、従来の新聞・テレビなどのメディアに対する大きな優位性だと思う。しかし、情報の入手にかけるインターネット利用の最大の特徴は、自らが主体的に、どの情報を入力するか選択できるということだ。従来の新聞やテレビなどのメディアでは、それらの機関が取材し、編集したものを受けとることで情報を入力していた。しかし、インターネットでは、自分が興味をもったものを、自らが検索し、情報を得る。この点は、大きな利点と危険をはらんでいると思う。利点としては、インターネットのもつ迅速さ、情報量の多さという優位性を最大限に生かし、自分に必要な情報を得ることができる。一方、これは裏をかえせば、自分の好みでしか、情報を入力しない、ということではなだろうか？こんな分野のことであつても、その分野しか見ないということ

危険であると思う。多岐にわたる総合的な見識、広い視野をもたなければ、ある一つの分野であつても正確な判断を下せることは限らない。そこで、そういう、総合的な見識を養うには新聞・雑誌を利用するのがいいと思う。コラム、小説、人物へのインタビューなどの様々な記事を読むことで、それが大切だと思う。インターネットの持つ迅速さ、専門性はとても便利だが、それのみにとらわれるのではなく、新聞・雑誌も読むことで、広い視野を得ることを忘れてはならない。その意味において、インターネットの重要さかますます強ま、ていくだろう。これから、世界でも、新聞・雑誌は必要だ。